

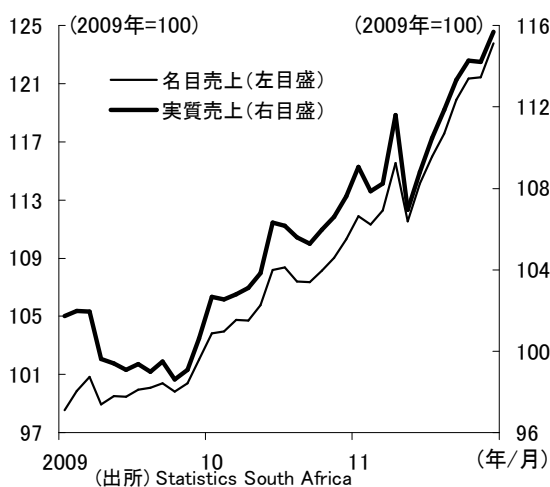


個人セクター盛り上がる南ア

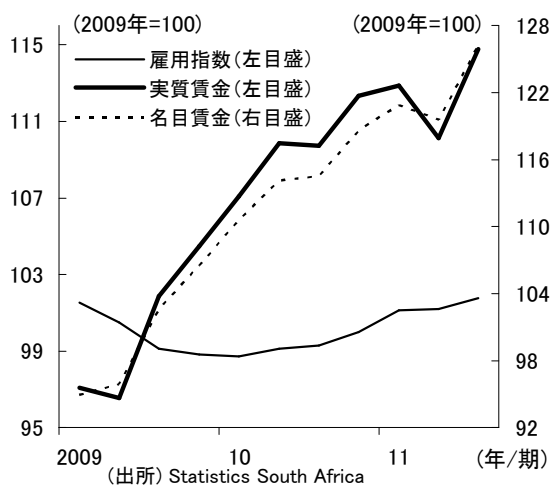
～ 消費に加え、住宅投資にも動意 ～

- (1) 南アフリカの個人消費が好調（図表1）。小売売上高はリーマン・ショック後の低迷から2010年、漸く増勢を取り戻したものの11年に入り再び一進一退へ。しかし年央以降力強い増勢へ。10月から11月は横這いとどまったものの、12月は名目で前月比年率25%増、実質で同17%増と10月までのハイペースの増勢に復帰。外資流入に伴う投資主導型経済への転換は次第に進行しているものの、インフラ制約が依然大きいなか、牽引役は引き続き個人セクター。
- (2) 旺盛な消費は所得・雇用環境の改善が原動力（図表2）。雇用情勢は10年半ば以降、着実な改善。一方、個人所得は09年半ば以降、リーマンショックの反動で急速に増加した後、10年に入って増勢は鈍化したものの着実な増勢持続。昨年7～9月期の前年比増加率は雇用の2.5%に対して、賃金は名目が10.2%、実質が4.6%。
- (3) 加えて住宅需要の盛り上がり、このところの個人消費、とりわけ家具など耐久財消費の増加を下支え（図表3）。金利上昇を受けてオフィスなど非住宅建設が弱含むなか、住宅需要は引き続き好調。住宅着工の申請許可金額は実質ベースで09年半ばから昨年央まで底堅く推移した後、昨秋来、盛り上がりへ。
- (4) 輸出の低迷が長引いているものの、個人消費を中心とする着実な内需拡大を受けてPMI、いわゆる当面の経済動向を示唆する代表的景気指標の一つとされる購買担当者指数は、昨年7月をボトムに上昇（図表4）。内訳をみると、在庫が昨年末一段と減少するなか、本年1月、新規受注が急増。好調な内需は外資流入のトリガーにも。本年の同国経済は実質4%前後の底堅い成長持続の公算大。

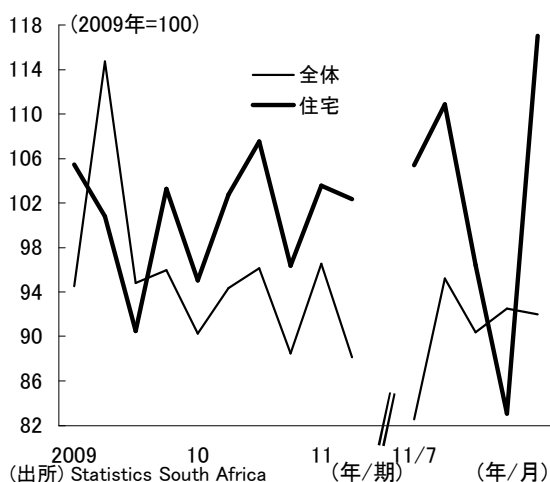
（図表1）南アの小売売上高（季調済）



（図表2）雇用指数と名目・実質賃金（季調済）



（図表3）建設許可金額（実質、季調済）



（図表4）購買担当者指数（季調済）

